

石教研音楽部会レポート 研究授業レポート

授業日 2023年8月29日(火) 4校時

授業者 恵庭市立柏陽中学校 高橋 陽子教諭
第3学年 音楽

題材 「曲にふさわしい音楽表現について考え、合唱してみよう」

教材 合唱 はじまり

1. 授業者より

今回は音とりを1時間しただけのタイミングで授業だったため、表現について深く掘り下げて考え、演奏することができなかった。ただ、「はじまり」のアカペラ部分のみ、強弱記号にフォーカスをあてて表現について考える授業をつくることはできた。

ICTの活用、対話の場面の確保を盛り込んだため、内容が盛りだくさんになってしまい一つの場面で時間を十分に確保してあげることができなかった。楽譜への書き込みはジャムボードを使って行ったが、ここはアナログのまま紙に記入させる方が時間もかからず楽だったように思う。その反面、各グループで記入したものをすぐに画面を通して共有することができ便利だった。

実技教科において、実際に演奏をする時間を確保しようとする対話の時間を設けるのが非常に難しい。ただし、対話によって深くかんがえ、周りの意見を聞くことで演奏に深みが出てくることもわかった。今後は限られた時間の中で、どのような時間配分をしていくかが課題だとわかった。

2. 参観者より

- ・導入の form のミニテストが、短い時間で基礎基本が確認出来て良い取り組みだと思いました。
- ・アカペラ部分を重点的に、ということだったので、取り扱う箇所は最初の8小節に限っても良かったのかもしれない。
- ・話し合いの中で、強弱の幅(変化の具合)を風量など他の例えにできていたのは、色々な視点から曲を解釈するきっかけになって良かったと思います。
- ・実際に録音した演奏を聞かせることで、自分たちの演奏の課題に気づき、解決するための話し合い活動が活発に行われていた。

3. まとめ

合唱の授業でのクロムブックの活用は、対話的な活動での意見をまとめたり、個人が楽譜に考えを記入したものを紹介したりする時には効果的であることがわかった。対話的な活動の部分でも、共通の資料をもとに生徒同士意見を出し合い、自分たちなりに強弱について考えていたことが伺えた。

ただ、授業者からもあったように限られた時間の中で対話的な部分と実技的な部分の時間配分のバランスが難しいように感じられた。クロムブックなどのデジタルの部分と、直接楽譜に記入していくアナログな部分があっても良いようにも感じられた。

